

## 1 第3回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議の意見と追加資料について

## 【主な意見（宿題事項）】

主な意見	対応状況
○合計特殊出生率は、出産可能な年齢の女性と生んだ子どもの数であり、結婚しない人も含んだ数値である。一方で「完結出生数」は、子供を産んでいる女性が、生涯に何人産むかという数値であり、 <u>合計特殊出生率は年々下がっているが完結出生数は安定しているという数値もあるので、わかれば、八幡平完結出生数は、どのくらい生んでいるのかを知りたい。</u>	・追加資料1を参照 ※国のデータはあるが、八幡平市のデータはない。
○観光客の消費金額、リピート率など国が抑えている数値を県が重要な資料として出して、その後、地域が補完する形になることが非常に重要である。(国がバックデータとして市町村分も把握しているだろうが、データ開示が可能か)	※国に市町村のデータがあるか、またある場合開示が可能か確認する。

## 【その他主な意見（留意点）】 総合戦略

項目	主な意見
<b>【施策1：八幡平市の農（みのり）と輝（ひかり）のブランド強化プロジェクト】</b>	
大学・高校関係	<p>○COC+では、地元大学が地域と連携して地元就職率を45%から55%に上げて、<u>大学からの地元就職者を155人に増やしていく計画なので、八幡平市はその中で、何人を取り込むかが、市の取り組みとなる。</u></p> <p>○中学校から高校に進学する際に、大学を視野に入れると、平館高校からの大学進学は少数で難しい。<u>盛岡周辺高校への進学を目指した時点で地元から気持ちが離れてしまう。</u></p> <p>○<u>平館高校に進学コースがあると、上を目指す子ども達が高校から更に県内の大学や専門学校に入るルートができる。</u></p> <p>○八幡平市も地元自治体として平館高校と一緒に高校再建をやっていかなくてはならないため、我々も意見を主張していきたい。</p> <p>○<u>子供たちが自分の能力をどんどん生かしていくためには、県という境を越えて学校に入学できるようなシステムを作らないといけない。</u></p>
子ども同士が意識を高め合う場	<p>○子供同士が高め合える場所がないため、<u>地域の中で、高校生、中学生が健全に集まれる環境を整えることも必要</u>である。</p> <p>○COC+では、大学生がキャラバンを作って、地域の高校や中学校をまわることも<u>考えている</u>ので、子ども達の意識を高めるという取り組みも考えたい。</p>
農業・エネルギー	<p>○総務省からの業務委託事業で、分散型エネルギープロジェクトがり、地熱温泉を基盤とした観光振興の定住促進の検討を振られたが、<u>発電所だけを作ってはダメなのか。</u>雇用も生まれ、電気も生まれると思う。</p> <p>○<u>地熱の知識は、若者は乏しいため、小中高校の中でのもっと深い学習があってもいいし、地熱事業をどうしたらいいかというワークショップ等の活動があるとよい。</u></p> <p>○農業はリンドウと家畜、野菜と肉をメインにするのがいいと思う。</p> <p>○<u>地熱利用は、地熱を使ってハウスを温めて、通年野菜を作るのがいい。</u></p> <p>○施策1のブランド強化に関する取組内容は、記載のとおりでよい。</p>
情報発信（就職情報、PR）	<p>○起業支援が充実していても、大学生で最初から自ら起業する意欲をもった人はなかなかいないため、<u>最初は従業員として八幡平に就職するところを支援することが重要であり、八幡平市の中にどのような企業があるのかPRすることも大事</u>である。</p> <p>○今はHPに求人情報を載せ始める段階で、定住にかかるHPに随時掲載を予定し</p>

	<p>ている。効果をどう高めていくかは今後進めながら次のステップを狙っていければと考えている。</p> <p>○求人広告を掲載する<u>企業の魅力をアピールする施策も必要</u>である。</p> <p>○企業と市民推進力のプロジェクトと大学や高校も、八幡平市の魅力を合わせて伝える。こういう環境で、こういう自然があり、こういう風に支援するところを最大限にPRできるとよい。</p> <p>○岩手にある大学だけでなく、中央の大学などにも積極的に八幡平市の資源はこういうのがあって、今こういうところに力を入れているということをPRするのがよい。</p> <p>○大学の研究のグループを八幡平市に誘致して、八幡平でいろいろな研究が出来るようになる<u>協力</u>もできそうである。</p>
KPI	○施策1のKPIの企業件数は、毎年起業件数が増えるのは難しいと思う。 <u>法人税収を基準値とした方が評価もしやすいのでは。</u>
COC、地域資源掘り起こし	○COC+事業では、 <u>自治体と学生が連携して、地域の資源を掘り起こしながら、何かビジネスを検討するような機会をつくっていくことを想定しており、地域の経営者も意識が変わっていかなければならず、両方が必要</u> である。
【施策2：八幡平市の豊かな自然や絆を活かし、新たな人が流入する流れを創る】	
観光関連 (おもてなしのレベル、指標、ターゲット)	<p>○首都圏からの観光客を誘客することは、首都圏のレベルに合わせていけないといけません。<u>おもてなしのレベル</u>（商品を提供するスピード、そっけない対応等）が<u>まだまだ追いついていない</u>。外の世界を知ることがすごく大事である。</p> <p>○岩手県の人たちは1回顔見知りになるとすごく素敵な人間性があるが、お店に入ったときの<u>第一印象</u>とかが物足りない。</p> <p>○観光客入込数を数値目標に上げているが、乗客が泊まらず、お金を落とさないため、<u>宿泊者数の入れ込み数が少ない</u>。<u>宿泊額を指標</u>にしてほしい。</p> <p>○観光関連は、<u>メニューづくり</u>とかもあるので<u>指標</u>をもう少し増やしたい。受け入れ者数というのは<u>インストラクター</u>とか受け入れ側のほうの<u>指標</u>で、あとは<u>学校数</u>などもほしい。</p> <p>○人数は極端の話、観光入込客数が多くなくても、お金をしっかり落としてくれて、満足してまたリピーターになって、次回はもっとお金を落とそうという地域になるとよい。</p> <p>○旅行関連のターゲットは、<u>大学のゼミ合宿は有望なターゲット</u>になり得る。必ず宿泊するし、少なくとも2～3日は滞在する。</p> <p>○八幡平を対象に何らかの研究等をやれば、大学との連携による産業強化プロジェクトに繋がりがやすくなる。</p> <p>○学生はお金をあまり持っていないので、<u>補助</u>があると来る可能性が高まる。</p>
健康リゾートと日本版CCRC	<p>○健康リゾート強化プログラムと日本版CCRC構想プロジェクトは関係していて、介護になる状態の前の健康寿命を長くするということから発想しており、その取り組みを健康リゾート強化プロジェクトと結びつけることになると思う。</p> <p>○市は広いので、ここは「健康リゾートとCCRC」とか、ここは「日本版CCRCのみ」とか、ここは「生涯活躍のまち」とか、「スポーツイベントとかは合宿はこの地域」など<u>テーマとゾーン</u>を分けてもよい。</p> <p>○<u>体育施設を所有しているホテルを活用して、市外から呼ぶプログラムを作り、健康を提供することも進めていった方がよい。</u></p>
【施策3：八幡平の地で縁を結び、次世代の成長と笑顔を育む】	
結婚・子育て支援アプリ	○アプリ等の電子ツールはすごくよいと思うが、市でやらなくても一般のアプリやメールマガジンなどがあるので、 <u>必要ない</u> 。

	○子育てアプリや出会いのアプリは必要ない。
移住関連	<p>○一足飛びに定住を目指して、<u>直接定住に働きかけることをやっても、とてもハードルが高い。ステップあった方が目標の数に到達しやすい。</u>(上勝町では、「移住のステップアップ」があり、一番下が「メディア」、その上が「1日～数日の滞在期間」、その上が「1週間～1ヶ月のインターンシップ」、その上が「年単位の長期滞在」、その上に「Iターン・定住」となっている。)</p> <p>○定住だけを設定するのではなく、<u>インターンシップを充実させ、学校も充実させ、それが最終的に形になっていくという考え方を共有した方がよい。</u></p> <p>○施策1の「菜園付滞在型住宅の整備」は、ふるさとに戻ってくるご年配の方が高付加価値を感じるもので、高単価だと感じている。</p> <p>○若者の定住は<u>ウィンタースポーツや自然を気に入って移住する。その人たちに安い家賃でおしゃれな場所を提供するのがよい。</u></p> <p>○八幡平市は<u>すごく若者にとって行って楽しい場所だという観光としての面をもっと充実させたアプリを開発し、使うことによって、人によっては出会いだとか、子育てにも楽しい場所だとなるとよい。</u></p> <p>○コアなファンをつくるためにはSNSなどを充実させながら、来た方が安心して、またそこで情報が出ていくことをうまく増殖させるような取り組みが必要である。</p> <p>○定住を促進する場合、<u>ターゲットを分けた方がよい。</u>Iターンはステップを踏んで積んでいく方法で、Uターンは、<u>八幡平市に縁があるので短いステップだ</u>と思う。滝沢や盛岡に住んでいる人なら、そこまで難しいステップは必要ない。</p> <p>○八幡平は暮らしやすいというのを見せたほうがよい。小規模な娯楽施設があるだけでも<u>過ごしやすさは変わる。</u></p> <p>○Iターンの人たちに対して<u>アピールするのはライフスタイルである。</u>八幡平で生きるとどういいう人生が送れるのか、<u>人生のプランみたいなものを前面に押し出すアピールを行い、コアなファンをつくるのがよい。</u></p> <p>○35年後の人口統計を出しているが、TPPが締結しそうだという話になると、地域の人の動きもある。</p> <p>○八幡平市にもたくさんの農業の研修員とか外国の方が沢山いるが、<u>難民問題を考えたとき、次の政策として外国人の方を受け入れるとなったときに、その方法を前もって準備していたら人口を抱えられるし、そういう人たちが子供たちをつくっていくという意味での人口増になる。</u></p> <p>○国が動き出す前のことも頭に入れて施策を考え、<u>35年の長い間に、政策が変わったときに準備ができていて動けるのであれば、アドバンテージが持てる。</u></p>
空き家対策と若者の住宅支援	<p>○空き家対策あるかどうかかわからないが、<u>空き家をうまく活用して外の人を呼び込む</u>というのが必要である。</p> <p>○金融機関として<u>居住に対するローン商品</u>を出している。空き家の数は把握できていないが、居住支援をすることで人口増加に役立つと思う。</p> <p>○一定の地域に若いときから年寄りになるまでいるわけではなく、<u>子供が小さいときは自然環境のいいところで育てたいなど、変わっていく。それに対するローンなどを考えなければならない時代</u>になっている。</p>
<b>【施策4：各地の元気を活かしたコンパクトなまちづくりにより持続性を高める】</b>	
広域連携	○広域の取組は八幡平市と仕事のミスマッチがあっても東京には出て行かず、 <u>盛岡に留まってもらい、八幡平市の観光や温泉が充実すれば、盛岡の消費も増えるような連携</u> ができるような取り込みであり、計画の中にも取り組んでいただきたい。

<p>再生可能エネルギー、農業 (産地化形成)</p>	<p>○震災の前のリーマンショックあたりのバブルも含めた頃の岩手県の求人倍率は0.3倍台だったが、同じ時期の山形県は0.6を切らなかった。<u>村山地方、尾花沢地方は農業の収入が高いため求職者が他の地域と比べて少ないのだと伺ったことがあるので、3ページのブランド化については、是非とも力を入れてほしい。</u></p> <p>○八幡平は過疎地域の指定が残っているので、かかった費用と雇用数に応じて補助がもらえるので、事前に市役所やハローワークに知らせしてほしい。</p> <p>○一番懸念していることは、<u>産地として確立しても家族経営が多いので、家族になにかあるとやめる可能性がある。分業化とか共同作業でやっていかないと大変である。</u></p> <p>○地域の元気を活かすために、<u>コミュニティセンターを活用したサークル活動やスポーツ活動が大事であるが、お金がないのにサークル活動に行っても馴染めず、仕事している人は時間がなくコミュニティセンターに行ってもサークル活動には入れない。どちらもうまくいくような形が必要だと思う。</u>(シルバー人材は、介護で朝晩、労働力になっており、農業作業の手伝い等で収入を得ている事例もある。⇒短時間労働でも地域の労働力として参加、地域活動を元気にするコミュニティセンターの機能等)</p> <p>○<u>リンドウを知らない人でも知識を経て、参加できるような場があれば、働きたい人やお金を得たい人の元気に繋がっていくのではないかと思う。</u></p>
<p>学生が戻ってくるためアイデア</p>	<p>○平館高校の就職者の約90%が地元に残っているが、<u>市外の高校に入り、県外の大学に入った人でも八幡平市に戻ってきて、八幡平市に生活したいとなるためには、9ページに空き家の対策や居住地域の改善とあるのが、これと同じくらい小学校、中学校、高校で、「地域って大事なものだよ」、「すばらしいものだよ」、「住んでいる自分たちも地域の一員だよ」という教育をもう少し強く教育して、自分たちの住んでいる地域に誇りとか充実感を持てるような教育を模範にしたい。</u>(自分が子供のことは、いまよりも地域の繋がりがあり、地域の良さをいっぱい聞いた気がする。)</p> <p>○COC+の中でできるかわからないが、<u>地元の大学と東京の大学が連携してインターンシップをやることで、東京で勉強をしている段階から繋がりを持つことも大事だと思う。</u></p> <p>○<u>平館高校が自校の生徒達だけじゃなくて、盛岡市内の高校生の面倒もみられるといいのかなと思った。</u></p> <p>○<u>東京の大学、盛岡市内の学生のインターンシップは、企業ニーズを踏まえてうまく配分していく感じだと思う。</u></p> <p>○<u>子供たちが就職したいと思っている就職先は、きれいで、力仕事が少ないというニーズ多いが、地元にある就職先は現場作業もあり、ミスマッチが大きく、就職に至らない。就職先がないわけではない。学校側も現場作業に憧れるような教育になっていないという見方もある。</u></p>